

第5回

環境モデル都市・低炭素社会づくり分科会

平成21年1月21日（水）

内閣官房 副長官補室（地球温暖化問題懇談会担当）

地球温暖化問題に関する懇談会
環境モデル都市・低炭素社会づくり分科会（第5回）

日 時：平成21年1月21日（水）14時00分～15時50分

場 所：内閣府本府5階特別会議室

議事次第：1. 開会

2. 議事

（1）環境モデル都市の追加選定について

（2）環境モデル都市の取組に係るフォローアップについて

（3）その他

国際セミナー2008の開催及び低炭素都市推進協議会の設立について

（報告）

配付資料：資料1 環境モデル都市候補都市の取組に係る資料

資料2 環境モデル都市の取組に係るフォローアップの進め方（案）

参考資料1 環境モデル候補都市の取組に係る参考資料

参考資料2 環境モデル都市に係る低炭素都市推進協議会の設立及び環境モデル都市国際セミナー2008の開催について（報告）

参考資料3 低炭素都市推進協議会関係資料

○村上座長 それでは定刻になりましたので、ただいまから第5回の環境モデル都市・低炭素社会づくり分科会を開催いたします。

委員の皆様方、御多忙のところをお集まりいただきましてありがとうございました。昨年の7月以来の約半年ぶりの開催でございます。

本日は、月尾委員、薬師寺委員、それから隈委員が欠席でございます。また、柏木委員は1時間ほど遅れて出席の予定でございます。

今日は、選定の話でございますので、追加選定にかかわるものにつきましては、議事内容及びその資料を非公開とすると。これは、一番最初の取り決めに従いましてそういう形で進めさせていただきます。

今日の議題は3つございます。1つ目が環境モデル都市の追加選定、2つ目が今後のフォローアップ、3つ目がその他議題で、前月12月14日にやりました国際セミナーとか、低炭素都市推進協議会のお話でございます。

まず最初の議題から審議させていただきます。

【追加選定に係る議題であるため、非公開。】

○村上座長 それでは、2つ目の議題に移らせていただきます。環境モデル都市の今後のフォローアップに関してでございます。

これに関しましては、当初から当分科会として選定について意見を政府に申し上げたということについて私も責任がございまして、その後の進捗状況をフォローアップすべきということは、ずっと官邸での中間報告でも申し上げたとおりでございます。これに関しましては、事務局案が用意されておりますので御説明をお願いします。

○河本内閣参事官 資料2として1枚紙をお配りさせていただいております。「環境モデル都市の取組に係るフォローアップの進め方（案）」でございます。

1. の経緯・スケジュールについては皆さん御承知のとおりでありますけれども、本日の分科会で選定の御議論をしていただいた後、今年度3月末には、先ほど少し途中段階の資料をお配りしましたが、この7都市以外に7月に選定していただいた6都市も含めて13都市ということでありまして、それぞれの環境モデル都市がより詳しい具体的なアクションプラン、どの年に何をやるんだということも含めて、そのアクションプランを3月、年度内に公表するというようになっております。そういう意味では、4月から本格的な本格的な取組が始まると

いうことになります。

このフォローアップの進め方ですが、「分科会は、以下のとおり、各環境モデル都市の取組の進捗状況等についてフォローアップを行うとともに、その結果を踏まえて必要があれば、選定都市の見直し、改善基準の改善等を検討する。」と。

「具体的には、環境モデル都市は、低炭素社会の姿を先行的なモデルとして国民に分かりやすく示し、情報発信を行うという役割を担っていることを踏まえ、分科会委員のうち可能な委員は、順次、各環境モデル都市の現地を視察して、施策の進捗状況を聴取し、必要な助言を行う。」具体的な視察時期等については、各自治体との相談の上、事務局において調整すると。

「各都市は、分科会委員による助言も踏まえて、目標達成に向けた施策の着実な実施及び成果の積極的な情報発信等を図るとともに、視察の進捗状況、温室効果ガス排出状況等を毎年度末にとりまとめ、公表する。

分科会は、各環境モデル都市の進捗状況等の報告について評価を行うとともに、必要があれば、選定都市の見直し、選定基準の改善等を検討する。」ということでございます。

以上でございます。

○村上座長 ありがとうございます。

先ほど枝廣委員からもこのフォローアップに関する御説明ございましたが、私、皆さんの議論を活性化したくて資料を1つ用意してありまして、一番最後に参考資料村上と書いてあるもので、カラーの3枚刷りがございますので、それをご覧いただければと思います。

A4横使いでございまして、これは最初の図が1人当たりのCO₂排出量と、これはGWGの換算値でございまして、1人当たり1年当たりでございまして、そこに左の6つがモデル都市、右の7つが候補都市でございまして、千代田区は途中でカットしていますから、圧倒的に大きいのでございますね。これは1人当たり1年当たりでございましてね。

○石田委員 住民ということですね。

○村上座長 そうです。

これに対して2枚目をご覧ください。

これは森林吸収量をここへ入れたらどうかということを試算したもので、これはまだ暫定値でございまして、私が見た限りでは、資料が十分出されていない自治体もあるんじゃないかと。例えば、梶原町なんかはマイナス220%になると。それから本当は下川町なんかは物すごく大きいはずなんですけれども、まだ資料が十分じゃないようございまして暫定値でございましてけれども、こういうふうになってくると。

問題は、4月ごろの委員会でも藤田委員や榊本委員からも御指摘ございましたけれども、じゃ、CO₂が少ないだけでいいのかと。日本は経済活動をしていかなければ生きていけないんだということで、その面も評価しなきゃいかんという御意見あったと思いますが、3枚目に、ある種の経済活動を一つ代表する指標として、ここではたまたま地価だけを選んでこういう表をつくったわけございまして、例えば千代田区はCO₂の発生量非常に多い。だけど、地価なんかで見るとそれに見合うだけの十分な経済活動、産業活動やっているんだということです。

今後私が申し上げたいことは、フォローアップの段階では、低炭素化ということはもちろん前提でございますけれども、同時にそういう総合的な環境品質と、経済活動や都市の活性度を含めて、そういったことも大事だろうということでございます。

特に今、藤田先生や柏木先生と勉強会をつくって勉強しております、都市の総合的な環境品質でございますね、活性度、経済活動含めてですね。そういったものも片方に置きながら低炭素化を進めるべきだということでございまして、これは枝廣委員もさんざん総理官邸の会議で言っておりますけれども、要するあまり低炭素化で暗くなるんじゃ困ると。やっぱりそれなりの環境品質は確保しながらでないとも市民も協力してくれないだろうということで、両方の側面を見るべきであるということをおもっております、この今後のフォローアップの進め方、これから皆さんから御意見いただくのに、ちょっと御参考までに出させていただきました。

どうぞ委員の先生方、御自由に御発言をお願いします。

では、岡本委員、それから石田委員どうぞ。

○岡本委員 2050年までに低炭素社会に転換することを、今の世代が約束するのですよね。だが、場合によっては言いつ放しになるかもわからない。この委員会もその責任を負う必要がある。オバマさんじゃないが、我々は非常に責任がある立場にいるのですね。

ここで選定したり評価するのは、簡単にできます。それぞれ選定された都市にこれをきちっとやってもらうためには、できればこの委員、どこかの都市にプレーヤーになるつもりで入っていただく。あるいは、専門分野をお持ちの方はその技術で横断的にプレーヤーとしてやっていただくというようなことも私は必要じゃないかと私は思います。あとフォローアップするにしても、我々は今環境、CO₂削減と言っていますが、実際これを実践していくには、「生活」とか「経済」とかそういう問題も同時に成立しなければ実践できるはずがないのです。さきほど村上座長がおっしゃったとおりです。そのためにも、どこかの都市にこの委員1人1人プレーヤーとして入っていただくのはどうだろうかという意見が一つです。

2つ目は、それでも多分足りないだろうと思います。なぜならば、この選定された都市で、

大都市は多分大丈夫だろうが、つまり大学もたくさんあるし大きな企業もあるし、それぞれ支援者もいる。ところが、地方都市から小規模市町村になりますと、実際には自治体にプレーヤーがいないと。だれかがサポートしなければ恐らく足りないだろう。例えば宮古島市とか梶原に今、中央の行政機関が入っていると思うのですが、多分偏った入り方だと思う。先ほどから言っています「生活」とか「地域経済」を含めた低炭素地域、持続的な社会をつくるためには、もっと多領域の知恵とか具体的な作業が必要なのだと思います。

いろんな機関のサポートが可能でしょう。例えば私が今関連しています産学官連携コーディネーターですが、ここには文科省とか経産省の人材がいます。農水省にもたしかそういう統合的に何かやるプレーヤーが多分いたと思います。こういう多分野の人をできるだけここに参加させお手伝いできるような体制づくりや工夫をしていかないと、計画書はできても実際に進行しにくい。そういう統合的な作業展開をやれる人がいないと、特に小規模市町村では課題が起こることが危惧されます。

この2点を御提案申し上げたいと思います。

○村上座長 少し皆様の御意見固まってから私の意見を申し上げたいと思います。

○石田委員 下川町に12月の初めに行かせていただきましてびっくりしたんですけれど、たしかそのときに御提示いただいたものによりますと、この計算の方法でいくとマイナス1,000%ぐらいの森林吸収が達成しているというふうにおっしゃっておいりました。森を元気にして、ちゃんと使って、手入れをして元気にして、それで吸収量をふやすと。そのためには人が元気にならないといかんというので、ちょっと言い過ぎかなとも思ったんですが、暗くちまちな暮らしよりは、吸収量を考えると、多少人様がCO₂を出してもいいんじゃないですかと言ってしまいましたけれども、多分、そういうふうな観点というのは非常に必要だと思うんですね。

そういうことでちょっと申し上げますと、交通の分野だけに限りますと、CO₂の排出量が日本で一番どういうところで少ないかというのを、私じゃないんですけれども交通の研究者が研究しておりまして、それを拝見しますと、東京で言うと山手線のちょっと外側の木造密集地区が日本で実は一番CO₂の排出量が少ないところだと。公共交通そこそこ便利ですし、あまり自動車も使わないし。でも、あそこにおまえ本当に住みたいかという、必ずしもそうではないわけですね。

環境モデル都市の目的に、おさらいになると思うんですけれども、CO₂は減らすだけでなく、クオリティー・オブ・ライフも上げます、地域の活性化もやりますという、そういう観点が必要だと思うんですね。ですから、CO₂、CO₂というふうに言っていると、ちょっと

間違うかも知れないと。

そういう意味で、村上先生が国際セミナーの場でおっしゃいましたクオリティ・オブ・ライフとか、あと都市の経営費用とかCO₂なんかをうまく組み合わせた都市版CASBEEMみたいなものをぜひ開発しないと、見える化ができないだろうと。そういうことをこのフォローアップの中でどう位置づけてちゃんと考えていくかということは、専門家としての我々の任務じゃないのかなというふうに思います。それをうまく使えば、人々を元気づけたり、あるいは自分の貢献が目に見えるようになってきたりするんじゃないのかなというふうに思いますので、もう勉強を始められるということですが、極めて大事なものだというふうに思いました。

○村上座長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○藤田委員 フォローアップということで3点ほど申し上げたいんですが、1つはモデル都市への支援ということで、先ほど枝廣委員がおっしゃったことなんですが、一つは、市民の方々を定期的に継続的にチアアップする、これは非常に大事だと思うのですが、モデル都市そのものもある程度担い手は階層的であります。前回も北九州市の会議でもいろいろな自治体の方ともお会いしましたし、あるいは私自身も水俣、北九州市を拝見いたしました、一番労力がかかっているのは自治体の方々にありまして、自治体があつて、それから企業もおありで、それを支えているのが市民であるというような階層的な構造にあります。市民の方々をチアアップし続けることは大事でありますし、支援し続けるのは大事でありますけれども、それにはやっぱり自治体の方々に対してある程度支援の仕組みということをお検討いただかないと、若干、本当に息切れしかかっているような懸念があるような自治体もございました。

そのためには、事業的なことをいろいろお考えいただいているとは思いますが、その事業だけではなくて、事業の情報やその組み合わせでどういうことになるか、今後、国交省が何を考えて、経産省は何をを考えて、環境省は何をを考えて、農水省は何をを考えているということをお組み合わせとして情報提供するということが非常に大事だなと。これが1点目です。

2点目は同じ支援ですが、今度は環境モデル都市の和が13になるわけでありましょうけれども、そこで閉じるわけにいかないということです。これは重要な議論だと思いますが、これはどうやってアウトリーチ化していくということになりますと、先ほど展開すると、モデル性を持たないといけないということでありました。今回選ばれた都市も、提案された都市も、トップランナー的要素をお持ちであります。水平展開ではなくて、やはり雁行型のトップランナーとして先駆性を示した上で、その要素が地域に展開されていくという、仕組みをするには要素

抽出してそれを一般化して、ある程度パッケージ化してガイドライン化しないと、これはなかなか自治体で飲めないというところがあります。やっぱりそういう活動が非常に重要ではないかと、これは2点目であります。

その中で評価指標というのは、非常に重要になってくるということを私も勉強させていただいているところであります。今、村上先生がお示しになりましたように、炭素量だけで見ると非常に誤解がある可能性があります。だから、例えばこの場合地価であるとか生産量とかクオリティー側の議論を踏まえてこれをQとして炭酸ガスをLとすると、Q/Lを使えば、まさに規模に対してニュートラルになります。これは非常に重要な指標だと思いますが、同時にその波及的な効果をどこまで見るとか、非常にいい産業があれば、その中で発生量が多いけれども、そこから出てくる付加価値の高い製品というのは、実は波及的にCO₂を削減しているようなことをどのように評価に参入するかも重要な議論です。

実はこのあたりはIPCCでもほとんど議論されておらず、波及的なところについては、まだ定式化された評価方法がないところがあります。実排出量はどうやって計算するか。これもIPCCでかなり具体的に議論が進んでおりますが、どうも都市で定量化していくためには、そのあたりを波及的、2次的なものを含めた評価方法というのは、この分科会のような場からメッセージを発信して、省庁間連携で議論するようなことをしないと、計算しやすいところから順番に計算するような、そんなことになってしまうという懸念もございます。そういった意味では、評価指標というようなことも非常に重要ではないかと考えています。

これは3点思っていた点です。

○村上座長 ありがとうございます。

今回は、例えば6プラス7がトップランナー群でございますけれども、さらに2番目の先生の御指摘が、その他議題で低炭素都市推進協議会の議題が出ますので、またそれに関連して多分事務局なりに、その仕組みもお考えになっていると思います。

最後にちらっとおっしゃいましたね。やっぱりある種の評価の枠組みが必要で、計算しやすいところだけ計算するとか、都合のいいときだけ計算するとか、それはやっぱり避けたほうがいいと思うんですよ。だから、大まかな枠組みはつくるべきだと思いますですね、フォローアップのプロセスですね。ありがとうございます。

○枝廣委員 フォローアップについて、私のほうからも幾つか申し上げたいと思います。

まず、実際に選ばれた13都市に対するフォローアップという意味で言うと、今回、候補都市はもう一度突き返されて一生懸命練り上げて出していらっしゃったので、最初に選ばれた6都

市よりもすぐれているのではないかというところもあります。最初に選ばれた6都市へのフォローもきっとさらに必要かなと。という話はさておき、恐らくプレーヤーとして入るべきという御意見がありましたが、それがどういう意味かよくわからないですが、多分、専属アドバイザーという大げさですが、担当を決めてそこをいい形で進めていくように。可能な委員ということになりますが、視察をしたりアドバイスをしたりということはしていったほうがいいと思います。

私は、前に経産省の環境コミュニティビジネスの委員会に入っていたんですが、そこはやはり委員が担当を決めて、年に2回実際に現地に行って意見交換をしたり、サポートしたりということでした。成果が上がっておりました。ですので、選びっぱなしではなくて、それが必要だろうと。

この今の分科会の先生方も建築、エネルギー、私は多分コミュニケーション、様々な専門家の集団ですので、例えば建築に関してはこの先生の意見を聞くとか、そういったアドバイザーグループみたいな、ここにいらっしゃらないほかの専門家の方々にも入ってもらって、そこに聞けるような、アドバイスもらえるような体制ができるといいなと思います。

もう一つ、市民との関係で言うと、残念ながらこの環境モデル都市については、市民の間ではほとんど知られていません。理解もされていません。盛り上がりもいません。それは、環境モデル都市としては、非常にやりにくい状況になっているので。ですから、例えば担当の委員の先生がモデル都市へ行って意見交換するようになるときに、そこに地元のNGOや市民と一緒に入ってもらって、そこで一緒にやっていくというのを盛り上げるような機会としても提供していったらいいんじゃないかなと思っています。

もう一つは、横展開という意味でのフォローアップですが、既にもう横展開したらいいのになと思うような施策を打っているところがたくさんあると思います。ですから、もちろんこれからやっていくことも横展開していきますが、既にやっていてほかの自治体でも先ほどおっしゃった要素抽出とパッケージ化ができれば展開できそうなものは、どんどん収集して発信していくべきだと思っています。それはこの3月にアクションプラン決めて、来年の3月に結果が出て、それから要素抽出しましょうではなくて、並行してやっていくべきだと思っています。

そのときに、恐らく要素を抽出してパッケージ化していく担当はだれか。きっと事務局側なり、委員の中でつくっておかないと、これを自治体に任せるのは難しい話だというのが1点。

それから、では、その発信を何でやるのか。後ほど出てくる協議会のほうかもしれませんが、そこに入っていない自治体であっても、そういう情報を例えば仕組みであるとか、プロセスで

あるとか、それが学べるようなウェブサイトになるのかわかりませんが、そういった発信のための場が必要だろうというふうに思っています。

それから、クオリティー・オブ・ライフの点は非常に重要だと思っていて、環境にはいいけど、みんながつまらない、幸せでない都市になってもしょうがないので、どういう形かは別として例えばブータンのGNHという行き過ぎかもしれませんが、何か住んでいる人たちの幸せ感とか、この都市が環境へ取り組むことで、よくなっていると感じているのか、窮屈で住みにくくなっていると感じているのか。それは現地でのヒアリングになるのかアンケートになるのかわかりませんが、チェックをしながらやっていったほうがいいのではないかなというふうに思います。

○村上座長 大変幅広い貴重な御意見をありがとうございます。

さっき少しプレーヤーの話、岡本委員と枝廣委員から出たのでございますが、少なくともこの委員会のメンバーが審判であることは間違いのないと思うんですね。プレーヤーかどうかというあたりは、多分委員の立場によって違うんでしょうけれども、河本さんどうなんですかね、プレーヤーは特に別に委員がプレーヤーやっちゃいかんとか、そういった制約は考える必要があるのかどうか。いかがでございますか。

○河本内閣参事官 多分、最後は説明責任、我々分科会として世の中に説明責任のときに、こういう形でかかわった方が、評価のときはこういう立場でなっていますよという説明がちゃんとできるかどうかだと思うので、プレーヤーがそのまま評価も1対1で全部やっていいのかどうか、細かなルールづくりをすれば、ちゃんと世の中の人聞いて、あ、それだったら参加されて、こういう評価の結果のものなんですねという説明がうまくできるかどうかという問題かなというふうに思いました。

○村上座長 わかりました。

審判とプレーヤーを同時にやっちゃいかんということで、説明がつけばいい。それは、去年の4月、5月の段階でもって、いろんな先生方のいろんな自治体から御相談受けていると。だから、それで非常に密接にあれをしている場合には、票を入れるのからは遠慮したほうがいいということで、同じような仕組みでよろしいわけでございますね。

○岡本委員 いろいろ具体的な中身を見ていってれば、現場的な問題というのは物すごくある。それを私達ができるだけ現場に近いところにおいて、できるだけ早く実践できるようなことをやる必要があるのではないか。という意味から、できるだけみんな現場に出かけましょうと考えていました。私が言っているのは、そういう意味のプレーヤーです。

○村上座長 河野委員、どうぞ。

○河野委員 枝廣さんがさっき言った提案、具体的に賛成します。

それで、その中の2つあったと思うんですけども、1つはアドバイザーグループみたいな、特にいろいろな技術をお持ちの方であるとか、それだけだと人数足りないから、プラスその倍ぐらいの人数の集団がいて、もし自治体の側から何かわからないことがあるから、これを教えてほしいとか、これはどうしたらいいのかということに答えられるようにしておくというのが1点。もう1点は、その1つ1つの低炭素社会とか低炭素のまちづくりといったときに、困るのは一番イメージがわきにくいということなんですよね。何か非常に具体的じゃない。例えばさっき質問した豊田のあれにしても、じゃ、どういうふうに共同利用システムを運営していくんだというところが、非常にどうやるんだろうと思うんです。

確かに、1つ1つのことを解決して、もうできているところ、持っているところもあるので。ただ、それが何か全国的にすぐ、あ、そうなのかとわかりやすい形でわかっていないということがあるので、私も枝廣さんおっしゃったように、事務局に情報収集あるいはそれをもっとわかりやすい形で普及させる担当官を決めて、それでそれはウェブで今選定したこの都市の、これは例えばこのコンポーネントについてはこういうふうにやっていますよとか、こんなふうに、それはだから完成版じゃなくても、途中経過でもいいと思うんですね。それをできたら、これはちょっとまたあれですけども、できたら動画で、しかもあまり難しくなく。難しいことが書いてあっても読む気がしないので、こういうふうにやっていますよというのをわかりやすく伝えて、それをそれぞれの市町村というか、自治体にやってくれと言っても非常に人数も少ないし難しいので、ちょっとそこは事務局プラスアルファで考えて、ウェブをクリックすると、あ、こういうふうにやっているのかというのがわかるようにして、全国でそれを共有できるようにしていくというふうにしたらいんじゃないかなと思うんですけど。

○村上座長 大変貴重な御意見ありがとうございます。

2つあって、いわゆる先導性、モデル性みたいな横展開の話と、それから1つは、もう一つの条件で地域固有の条件にマッチした低炭素化ということがございまして。ただ、地域固有の条件の中に一般性のあるモデルを追求するという、そういう御指摘だと思うのでございます。

それはまことにごもっともでございまして、この間、12月14日に各6都市の市長さんから簡単にプレゼンテーションをしてもらって、例えばあれだけでも相当に僕は情報量があって、極めてよく整理された資料でございまして、ああいったものを全体で見やすいように整理してウェブで提供するというのは、こういう選ばれた都市以外のところに大変貴重な情報だと思いま

す。ありがとうございます。

榑本委員。

○榑本委員 今の枝廣委員と河野委員のお話に刺激されて、私もかなうことなら、今のような方向がいいと思いますが、もうちょっと手前で、恐らくこれで7つになるんですか。その御担当になっている方々がいろいろ試みとしてやってみると、いろんな問題にぶつかったり、うまくいく場合の条件はこういうことだとか、いろんな気づかれる発見があるだろうと思うんですね。そうすると、そういう人たちが一堂に会して意見交換をする中から、共通の問題とか、共通のやり方とか、そういうものが共有できるかもわからない。

そうやって考えると、私はこのモデル都市の分科会が、一つのそういう場の提供をしていくというようなことも、どちらが交通費をお持ちになるかという極めて具体的問題はありますけれども、お集まりになって、御自分たちの経験を語り合って、その対話の中からきっと方向性が見えるのではないかと。

ただ、そのときにはこの内閣府という一つの非常にいいポジションをぜひ活用いただいて、先ほど岡本委員もちょっと触れられていましたが、関係府省庁皆さん来ていただく。例えば省エネルギーの機械的設備であれば経産省ですね。それから森林の問題ならば、やっぱり農水とか国交とか、交通問題あるいは移動の問題というのは国交ですから。そういう関係府省の方々にも聞いていただいて、いや、実はこういうところにこういう仕組みがあるよというようなこともきっとあると思うんですね。ですから、そういう一種の場の提供も場合によると、この分科会の外か中かわかりませんが、非常に有意義ではないかなという気がいたしますね。

そういう意味では、麻生総理が環境大臣にグリーン何とかをやれと。僕はあれは悪くはないけれども、なぜ国交省や農水省や経産省全部におっしゃらなかったのか。やはり府省を超えた問題というのが、この問題の非常に大きい特徴だと思いますので、ぜひここではそれを先行してお考えいただいたらどうかなという気がいたしますね。

○村上座長 ありがとうございます。

局長何か。

○中島地域活性化統合事務局長 今、総理がちょっとメディアを通じていろいろ報道されましたけれども、総理はあのときは、私が環境省から聞いたのは、総理は、環境省が中心でいいけれども、各省と連携してやれという御指示を出しておられ、その後、環境省が各省回られて、いろんな枠組みがあるので各省知恵を出し合ってグリーンニューディールをやろうということで、今政府は動いております。

○村上座長 ありがとうございます。

○枝廣委員 今の榊本委員の御発言に触発されて。

場の提供というのは、すごく大事でいい御意見だったと思います。一堂に会してみんなで意見交換して、そこで浮かび上がってくる知恵をまた展開していくという御提案だったと思うんですが、ここは一步進めてこれが可能なのかどうかわかりませんが、私だったらこうするという提案ですが、各自治体でこの環境モデル都市の担当されている方と、それから恐らくこの委員の中の有志を募った形がいいと思うんですが、メーリングリストをつくって継続的に情報交換ができるように。

例えばこのところちょっと難しいなとか、行き詰まっちゃったというときに、担当者が気軽に聞けて、ほかの自治体、うちはこうやっているよとか、委員の中で、もしくは専門家がいるから聞いてあげるよというような。そのときに、内閣府がつくったメーリングリストになると、きっとみんな怖くてあまり発言できなくなってしまうと思うので。敷居をどうやって低くするかというのは一つ工夫があると思いますが、一堂に会して意見交換する前の間、ずっといろんなことを聞いたり、みんなで向かってやっているという、その場もできたらいいなど。今欧米でよく言われる、コミュニティ・オブ・プラクティスという、実践のコミュニティに担当者に入ってもらって、みんなで実践しながら進めていくような場になったらいいんじゃないかなと思います。

○村上座長 ありがとうございます。

ほかに御意見ございませんでしょうか。

○榊本委員 1つ、村上座長がおつくりになられた表を拝見して、非常にこれは考えるところというか、都市の役割とか、成り立ちとかいうものを非常に強く感じます。特に、この千代田区が高い数字になっているわけですが、これはいわゆる住民人口でおやりになっていただいて、昼間人口ではございませんか。就業昼間人口ではなくて。

○村上座長 ええ、使いやすいデータから、住民です。

○榊本委員 そうですね。恐らく、千代田区を中心にする中央区等の夜間人口と昼間人口はべらぼうに違います。したがって、普通の住民という定義でおやりにならば——統計はそれが一般的ですから——おやりになられるとこういふことだと思います。だから、そういう都市の姿がこれから見えるということが1つ。

それから、私の専門である電力で申しますと、恐らく上海とか香港を除くと、世界で面積当たり電力消費が一番濃密なのは東京の中心部だと思いますね。それも非常によく、ここに反映

されているわけで、これをよくじーっと見ますと、非常にいろんなことがわかる村上座長がお作りいただいたデータだなど、感想でございますが思います。

○村上座長 ありがとうございます。

補足させていただきますと、千代田区が地価が高いとか電力消費が多いから一方的に悪いか、そういう端的な議論ではないということ、みんなが共有してデータを使うと同時に質の高い都市をどう進めるかということ、今後の分科会で支援していきたいということでございます。ありがとうございます。

○枝廣委員 私もこの村上先生の資料、特に1枚目を拝見して、例えば国民を巻き込んでいくといったときに、例えばこういったグラフを出して、だから千代田区がだめとかではなくて、これがどういうことなのか、じゃ、自分たちはどうなんだろうという考えるきっかけになっていったらいいと思うんですね。

例えば、同じように工業地帯だけ横浜は低いのはどうしてだろうという、例えばそういう議論の最初になるんじゃないかなと思います。これも、今回情報発信のためのウェブにこういう形でも出していただいたらいいなと思います。

ウェブに関して1つ事務局に質問なんですが、今のところウェブを使っただけの情報発信とかいうのは、これまで、もしくは今後、どんな感じなんでしょうか。

○河本内閣参事官 現在のところは、例えば私どもの地域活性化統合事務局のサイトから環境モデル都市のサイトに入っていただくと、82都市すべての提案の内容から6都市の提案の内容、後で説明しますが、国際セミナーを開いてこんなのがありましたというのは整理されておりますので、それをもっと充実あるいは親しみやすくというような工夫はもっとやっていく必要があるかと思っております。

○工藤地域活性化統合事務局次長 私どもの事務局のほうで、地方の元気再生事業という地域づくりの取組をしているんですが、情報管理の点から一つ制約があるのが、例えば現地で起こっている、要するに事業をやっている方と、動画なんかの双方向の情報とか、事業も全国で120件やっているものですから、こちらが直轄でやっていると大変なもので、むしろ地元から入れてもらおうというふう考えたこともあったんですが、官邸のホームページに付属しているものですから、セキュリティーの問題があって不可能なんですね。ですから、官邸のホームページではなくて別のホームページをつくるとか、いろんなやり方を来年度以降考えていきたいと思っております。

○村上座長 大変前向きな御発言ありがとうございます。

柏木先生、先生がお見えになる前に候補都市7つ、モデル都市で推薦させていただくということで皆さんの御了解を得たんですが、よろしゅうございますか。

○柏木委員 結構です。

○村上座長 今、このフォローアップの議論をしているのでございますけれども、何か御発言ございますか。

○柏木委員 今、ちょうどこの会議におくれたのは、経済産業省の新エネ百選の選考委員会というのをやっていたものですから。116出ていまして、それをこれからどういうふうにしていくか。

そのときに、今出ていた話題が、新エネ百選、こういう環境モデル都市、いろんなものが今環境絡みで出ていて、今ちょうど私が来たらその話が出ていたものですから、遅れてきて申しわけないと思って言おうと思っていたことは、できれば、今この環境モデル都市をうまく使って雇用創出のモデルケースをつくっていく必要があるんじゃないかということを言いたくて。

今、新エネ百選でもそうだったんですけれども、やはり新エネ百選を使って経済産業省だと思えますけれども、経済産業省ベースで今度はそれをうまく使いながら、ビジネスモデルをその中に組み入れていくというふうにしたいと言っていましたので。できれば、雇用対策と環境政策、エネルギー政策、産業政策が一体化したような、これは内閣官房ですからすべての政策が省庁を超えてできるモデルの地になるというのが非常に重要だということを申し上げたかったんです。これが、既にそういう方向に走っているということが、極めて先進的でいいチャレンジであったなという感想を持っていまして。

あと一つは、ポリシーミックスが極めて今後重要になってくるだろうと。もちろん、民間の力が草の根的に上がってくるということは重要だと思いますけれども、それと同時に、中央省庁のポリシーミックス。ですから規制と支援とがうまくバランスのとれた政策というのが。この低炭素化社会というのは今の延長線上にあるというふうに思っておりませんから。そういう意味では、規制があって支援があって、それがうまくバランスがとれてポリシーミックスを展開していくということが重要だと。

それが、中央省庁は今そういう方向で走りつつあると思っていまして。それだけではやはりこれは回らないわけで、中央省庁がおやりになることというのは、やはりフレームワークをつくって、今度は自治体の中できめの細かい地産地消とか、その地域に密着したポリシーミックスはどうあるべきかということを考える時代に入ってきたと。

ですから、これはあくまでも自治体ベースで認定してやっている事業ですから、今度は自治

体ベースのポリシーミックスはどうあるべきかというのを、これをベースに走り出していくと、本格的な大きなフレーム、その中にクラスター状に点在しているそれぞれの自治体のポリシーミックス、それによって地域が活動して雇用が創出し、こういうモデルがやはりアジアの中にスピルオーバーしていくという、それかこれから重要になるなと思って。だけど、その流れがこの今回の中には、少しずつポリシーミックスの考え方が出てきていると思っていますので、極めていい方向性だというふうに評価しています。

以上です。

○村上座長 ありがとうございます。

先生がいらしている前から、省CO₂と同時に都市のクオリティーとか、活性度も評価すべきだと議論しておりました。その中で、今言った雇用吸収力とかそういったものも都市の評価の中に加えて、今おっしゃったポリシーミックスの体系化を図るというようなことが、今後のフォローアップの中でできれば大変結構だと思います。

先生方、委員、御意見ありがとうございます。

そうしますと、河本さん、今日はどうしましょうか。皆さんから大変貴重な御意見をたくさんいただきましたが、これをどんなふうに今後進めればよろしいでしょうか。

○河本内閣参事官 先生方の御意見も踏まえて、この資料をまたブラッシュアップさせていただいて、また先生と相談していろんな形でコミュニケーションとりながら中身を固めていくというプロセスをとらせていただきたいと思います。一堂に会する機会はなかなかないかもしれませんが、コミュニケーションとりながらより具体的に固めていくということで。

○村上座長 ということでよろしゅうございますか。

事務局のほうで、今日の御意見を反映させて、先ほどのフォローアップの資料を修正しまして、それを皆様に書面でまたご覧いただいて、あとの取りまとめは事務局と私にお任せいただくということでよろしゅうございますか。

どうぞ。

○枝廣委員 すみません、先ほど言うのを忘れてしまいました。

情報発信の例えば6都市、それから7都市、こういう目標を掲げてこういうやり方でやろうとしていて、例えば具体的に展開できる施策はこういうものだという、今の時点で発信できるものの、英語での世界への発信についてはどのようにお考えでしょうか。やはりせっかくやるのだから、世界に発信していったらいいと思っているので、その点もフォローアップの可能性に入れていただければ。

○河本内閣参事官 大変重い指摘を。一応、国際セミナーのときは、6都市については英語で外国の方にもわかるようにやっていますけれども、まだそれを情報発信という形できちっとできているかという点はまだできておりませんので、ちゃんとできるだけ努力したいと思っております。

○村上座長 14日の私の基調講演もちゃんと英語の資料をつくらせていただきましたけれども、事務局につくっていただいたんですが。

ありがとうございます。

それでは、最後の3つ目のその他議題で、国際セミナーの話とか推進協議会、これに関する御説明をお願いします。

○河本内閣参事官 それでは、資料は参考資料2「低炭素都市推進協議会の設立及び環境モデル都市国際セミナー2008の開催について」について御説明させていただきます。

ちょっと順番が前後しますが、4ページ目を先に。

12月14日に北九州国際会議場で、初めてとなります環境モデル都市の国際セミナーを開催させていただきました。これは、その時点では6都市ということでしたけれども、環境モデル都市6都市、それから多くの地方公共団体、さらに海外からもたくさん集まっていただきまして、参加者、日曜日でございましたけれども731名の方にお集まりいただいたということでございます。開会では麻生総理から、今後の低炭素社会構築に向けてのご挨拶をいただきました。鳩山大臣にも同席をしていただきました。基調講演については、村上座長に全体の話をつまみやすく、北九州、これは一般の市民の方がたくさんいらっやっていましたけれども、説明をしていただいたということです。

それから、各都市の取組もそれぞれの都市の市長さんから、非常にわかりやすくそれぞれの都市の取組について御説明をしていただきました。さらに、今世界的に見たときに、最先端を走っていると言われておりますフライブルグ市、あるいはマルメ市、それからポートランド等々から、そこの副市長さん、あるいは会長さんがいらっやって、その先進的な取組を御紹介していただきまして、それから藤田先生にコーディネーター、それから石田先生にもパネリストになっていただいてパネルディスカッションということで、最後まで大変多くの方に御参加いただいて、この国際セミナーを成功だと我々は思っておりますけれども、一歩進めさせていただいたということでございます。

続いて協議会について御説明をさせていただきます。

○浦辺内閣参事官 地域活性化統合事務局参事官の浦辺と申します。着席で説明させていただきます。

きます。

低炭素都市推進協議会の設立ということでございますが、ただいまの参考資料のページの2をご覧くださいと思います。低炭素都市の推進協議会につきましては、ただいま説明がございました国際セミナーと同じ日、同じ会場で設立総会を行い、設立されております。こちらの推進協議会につきましては、環境モデル都市のすぐれた取組の全国展開、それからもう一つが、低炭素社会づくりに積極的に取り組む海外都市との連携によりまして、我が国の取組を世界に発信するという2点を目的といたしまして、この低炭素型の都市・地域づくりを目指す市区町村が中心となりまして、さらにこれを支援する関係行政機関の参加ということで総会を開催いたしました。

設立総会におきましては、協議会の規約が承認されました。また役員として、会長に北九州市長の北橋市長が選出をされております。参加団体は、市区町村70団体、都道府県39団体を含め、全体で140の団体で設立されたということでございます。当日は、本日御欠席ですが、薬師寺先生に基調講演をいただきまして、その後、2ページ目の下側に記載させていただいておりますけれども、この協議会の活動の基本的理念となります低炭素都市推進宣言を採択をいたしまして、この協議会の設立総会の午後開催されました国際セミナーでは、北橋会長のほうからこの推進宣言につきまして、麻生総理のほうにも報告をさせていただいております。

続きまして、参考資料の3をご覧くださいと思います。簡単に、推進協議会のあらましを説明をさせていただきたいと思います。

表紙をおめくりいただきますと、まず2ページ目をご覧くださいと思いますが、協議会の組織をどのような形で考えているかということでございますが、12月14日総会が開催されましたが、この総会の下に会長がおりまして、会長の下に協議会の運営に関する事項の検討のため幹事会を置いております。こちらはいずれも、ただいま説明しました構成員の中から総会で選定することになっております。

それからさらに、具体的な個別の課題に対応するために、ワーキンググループ等を置くことにしております。こちらにつきましては構成員のメンバーの中から、検討課題に応じて適宜参加するとともに、外部アドバイザーとして、この非構成員で有識者の先生の方、あるいはノウハウをお持ちの民間企業の方や団体の方も参加していただいて、個別の課題にいろいろと取り組んでいこうということでございます。

それから事務局につきましては、私ども内閣官房の地域活性化統合事務局で務めさせていただくという組織になっております。

次のページをめくっていただきますと、2枚ほど規約が続いております。規約は、こちらの資料では「(案)」というふうになっていますが、こちらは12月14日の設立総会で承認をされましたので、「(案)」が取れまして、2ページ目の最後の附則のところにございますように、平成20年12月14日より施行するという形で既に成案となっております。

こちらで、参加していただきます市区町村であります、2ページの一番最後に書いておりますが、環境モデル都市に準じて、温室効果ガスの大幅削減に向けて行動するためのアクションプランを策定する意思のある市区町村が参加可能ということにさせていただいております。

さらに1枚めくっていただきますと、その裏側に昨年の12月14日現在の構成員、参加していただいた団体名を具体的に記載させていただいております。このような形になっております。

それからその右側ですが、参考資料の3-4となっておりますが、こちらが協議会の役員で、先ほど申し上げましたように、会長は北九州市であります、その他20の団体から幹事に就任をいただいているという形でございます。

以上が当日、設立総会で決まったことではありますが、今後の活動といたしましては、さらにその次のページをめくっていただきますと、参考資料の3-5というのがございますけれども、低炭素都市推進協議会のワーキンググループの活動をスタートさせるという予定になっておりまして、こちらにつきましては先ほども少し説明をいたしましたけれども、総会で設立を決めるということにしておりますが、目的としましては、おのおのの都市が推進する固有の先進的取組を関係省庁が横断的に支援する場としての役割を担うということで、具体的にはグループ活動にふさわしい新たな社会実験、実証実験的なテーマと取組を構成員のほうに公募をいたしまして、各都市は公募の趣旨に合致すると考えられるテーマ、取組を提案していただき、共通の話題について集まっていたいただいているいろいろと議論をしていくという形を考えております。

次のページですが、具体的に当日設立総会で説明するに当たって、イメージがないとわかりにくいということで、例えばということの事例でありますけれども、ワーキンググループの活動のイメージとして、例の1にございますような、LRTの導入・拡充等によるまちづくり、交通政策によるまちづくり、それから例の2のような街区単位の面的なモデル地区の形成等について考えると、それから左下にまいりまして、環境モデル都市との検証と評価ということで、評価手法、環境性能評価のツールの開発だとか見える化の検討など、それから例の4としまして、都市と地方の連携によるカーボンオフセットのシステムティックな取組について検討する。それからバイオマスの利活用の促進。こういったものが例としてはあるのではないかとというようなことで、イメージとして提示をしております。

実際には、こういったものをこれから公募をして、各都市、幹事などで相談をして、総会に諮ってワーキンググループを発足させていこうということで考えております。

簡単ですが、以上でございます。

○村上座長 ありがとうございます。

以上が12月14日の国際ワークショップと低炭素都市推進協議会の紹介でございます。

御意見、御質問ございましたら、御発言をお願いします。

○石田委員 この協議会というのは、本当に重要なものだと思うんですね。先ほどから、ここをどうするかということが議論になっていましたけれども、やっぱりこういうのは自立的、分権的な仕組みも同時に考えておくかということは極めて重要ですので、そっちのほうを多分担うものだろうというふうに思っております。

そういうことを前提にして意見を2つぐらい申し上げたいんですけども、1つはメンバーが、環境モデル都市の推進なので、自治体を中心になるということはあると思うんですけども、民間という言葉がこの参考資料3の2ページを見ますと、外部アドバイザーのところにか出てこないんですけども、何とかやりたいわという民間の団体の方はいっぱいおられると思うんですね。アドバイザーになれないかもわからないけど、とにかくやってみたいわと。そういう人たちとのコミュニケーションをどうするかということが極めて大事で、その辺、何かうまく位置づけられないかなという気がします。

2番目が、ワーキングをつくってこれを構造化するというのも、これは極めて重要なアイデアだと思うんですけども、何かいかにも技術技術しているワーキングしかないかなという気がするんですね。こういう技術のところへ、我々が参加をさせていただいて、専門的知見から何かお役に立てるといことがあれば、そういうことは私自身もしできればやりますけれども。

それに加えて、例えばコミュニケーションをどうするだの、コミュニティのインクルーブメントをどうするだのという、そういうところが何か欠けているような気がいたします。何度も申し上げるんですけども、EUの交通の分野ですけども、シビタスプロジェクトというのがあって、その中のチームのグループの名前がゆとりのある都市グループとか、笑いのある都市グループとかって、ちょっと日本的感覚から言うとおふざけっぽいやつがあるんですけども、そういうふうないろんなことを巻き込んだワーキングとかグループ形成をやっていた時期もありますので、その辺参考にしたらどうかなというふうに思いました。

○村上座長 ありがとうございました。

1つだけ補足させていただきますと、今日のこの分科会と推進協議会とは、直接組織的には

つながりはないのでございますけれども、今日皆さんからいろいろ御意見いただいて、それは事務局を通じて協議会に反映させていただくと。河本さん、そういうことでよろしいわけですね。

○河本内閣参事官 はい。

○村上座長 ということでございますので、また御意見ございましたらお願いします。

さっき枝廣さんおっしゃっていた、いわゆる市民のビヘイビア、行動パターンとかインセンティブとか、それをどうやって便益に結びつける、そういったワーキングもあつたってよろしいわけですね。

○枝廣委員 はい。今おっしゃったのはそのとおりだと思います。

私もその構成員を拝見していて、民間団体に入ってくるのかもしれませんが、もう既にこのような都市の取組をサポートしたり、ネットワークをしている例えばイクレイさんであるとか、環境自治体協議会であるとか、こういったところとの連携をどう図っていくのか。そういったところでも、いろいろな知見や経験がたまっているところもあります。それを全くゼロから、またかなりメンバーも重なっていますが、ゼロからやる必要ないだろうなということ。

それからワーキングにかかわるかもしれませんが、やはりNGOでも、今、専門家主体の事業がたくさんありまして、カーシェアリングにしても、交通にしても、バイオマスにしても、環境教育にしても、今おっしゃった環境コミュニケーション等にしても、そういったNGOの知見や経験を上手に展開に生かしていくということも大事だと思っています。その点を自治体を中心になるのはしようがないのかもしれませんが、もう少し考慮いただければと思います。

○村上座長 ありがとうございます。

ほかに御意見ございませんでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、全体を通じて何か御発言ございますでしょうか。

事務局に私のほうからお伺いしますが、この分科会はフォローアップということがあるので、来年度はまだあるかと思っておりますけれども、今年度で一応終了するのか、あるいは来年度も続くのか。その辺の位置づけはどうなっているんでございましょうか。

○河本内閣参事官 環境モデル都市の取組のフォローアップを行っていただくに当たり、これからはコミュニケーションの形をつくっていきますので、そういう意味では引き続き分科会の開催をさせていただくという方向で考えたいと思います。

○村上座長 ありがとうございます。

ということで、委員の皆様方、今日は7都市の候補がとれたから、まだ仕事が終わったというわけではございませんので、来年度もよろしく事務局の御協力をお願いしたいと思います。

では、最後になりますけれども、中島局長、全体的に少しコメントいただければありがたいと思います。

○中島地域活性化統合事務局長 まずもって、モデル都市選定につきましてお礼を申し上げます。特に座長には大変御苦勞かけまして、ありがとうございました。

というわけで終わりませんで、フォローアップについても、いろいろ御指摘ありがとうございました。私どもとしては、ここにあります協議会を、いただいた御指摘はごもっともで、実はメンバー等いろいろ悩んでいたんですが、12月にとりあえずつくろうと思って、自治体だけでバツとつくってしまいました。

点々でいろいろ書いてありますけれども、これを膨らませていって、ここは評価の場であり、情報発信の場であり、意見交換の場であり、むしろ我々の手を離れて事務局の下に何か点で書いてある、だれかこれをやってくれないかなというぐらいの思いで、今、枝廣先生からありましたけれども、イクレイなどの自主的な活動団体ともぜひ連携したいと思っておりますし、民間のいろいろな経験のあるところで、むしろ自治体とか役所が何も知らないということのほうが多いかと思っておりますので、この場をうまく育てて、先ほどのワーキンググループ活動につなげることも必要で、さらに先ほど紹介した事例も、確かにこれを考えると、知恵のないところでいかにもお粗末なんですけれども、この辺も御指導いただいて、さらに自治体からもいろいろ提言いただいて、ここに専門家や各省庁が入って議論できるような場があればいいなと心から思っております。

まだまだよちよち歩きでございますけれども、個人的には私もこの間いろいろ勉強させていただきまして、都市づくりを環境を軸にして考えるということ。あるいは逆から言うと、低炭素社会づくりを都市のレベルで考えるということ。これは非常に表裏でありますけれども、どうもこれは、恐らく非常に広がりのあるアイデア、政策スキームであったんじゃないかなと改めて思っております。これが大事に育ちますように、私どもも微力ながら力を出したいと思っております。どうぞ今後とも引き続き御指導いただきますようお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

○村上座長 どうも中島局長ありがとうございます。

それでは、本日の会議はこれで終了したいと思います。

委員の皆様、それから事務局の皆さん方、大変ありがとうございました。